

2022年11月

2023年3月期 第2四半期累計期間 (2022年4月1日～2022年9月30日) 決算説明資料

ディーバイエックス株式会社



1

当第2四半期（累計期間）のハイライト

3

2

当第2四半期（累計期間）の決算概況

10

3

2023年3月期の見通し

25

4

中期展望

30

5

企業理念とESG方針

36

1

当第2四半期（累計期間）のハイライト

当期方針と取り組みの状況 P 4

R-SUD事業 P 7

CDR認定 P 8

RAQUOS事業 P 9

方針

① 売上シェアの拡大

施設

品目

- 施設拡大（新規、取引消失先、大学病院、新規ABL立ち上げ施設、海外輸出）
- 品目拡大（未取扱メーカーの商流獲得、新規商品の開発と導入）

施設：栃木営業所（昇格）

施設：新規施設163、売上倍増施設12

※売上倍増施設：上期売上高が前期下期に対して200%以上かつ10百万円以上

施設：大学病院との取引拡大に好事例、ABL立ち上げも小規模ながら複数獲得

品目：新規商品（虚血分野）の導入準備完了、下期販売開始を予定

方針

2

粗利率の改善

仕入

高利益率商品

- 対仕入先メーカー（価格交渉、ターゲット施設・戦略商品における協働）
- 高利益率商品・機器・自社企画商品の売上の拡大
- RAQUOSによる総代理店事業売上の回復

対仕入先メーカー：インセンティブの獲得（前年同期比 32.1%増）

高利益率商品：自社企画商品の売上拡大（前年同期比 41.4%増）

高利益率商品：機器の売上拡大（前年同期比 14.8%増）

粗利率

不整脈事業（前年同期10.7%→当上期11.0%）

その他事業（前年同期11.1%→当上期11.9%）

虚血事業（前年同期20.7%→当上期11.6%）

⇒全社（前年同期11.4%→当上期11.1%）

方針

③ 営業利益の確保

選択と集中

費用対効果

- コスト削減（費用対効果、時間コスト、選択と集中）
- 事業単位ごとの営業利益の確保

販管費：2,032百万円（前年同期比1.8%増）

売上高販管費比率：8.6%（前年同期9.1%）

事業単位（販売代理店業は営業所・出張所単位）でのチェック継続

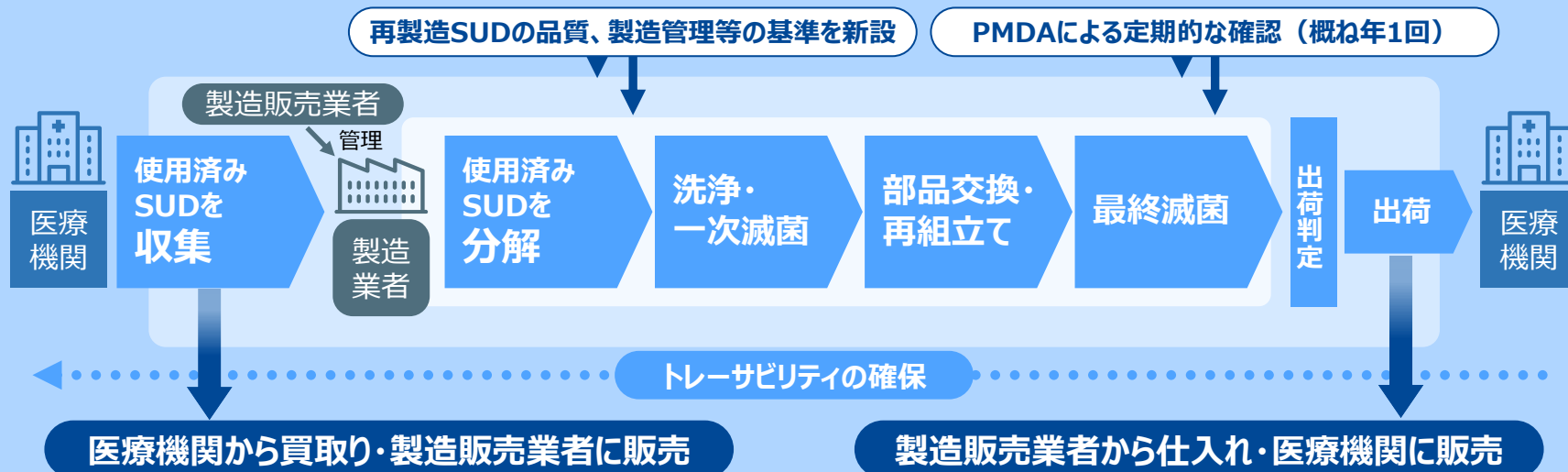
第2四半期累計期間

粗利 2,630百万円（前年同期比4.4%増）

販管費 2,032百万円（前年同期比1.8%増）

営業利益 598百万円（前年同期比14.4%増）

再製造SUDに関する新たな仕組み



出典：「単回使用医療機器の再製造について（概要）」（厚生労働省）

(<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11124500-Iyakushokuhinkyoku-Iryoukikishinsakanrishitsu/0000173090.pdf>) を加工して作成

2018/12 回収事業開始
2020/6 販売事業開始

2022/9

回収先施設数 89（前期末63）
販売先施設数 25（前期末22）
国内代理店最大の取引量

NEW

カテーテルリサイクル事業

使用した医療機器を回収して、それに含まれるレアメタル・プラチナ・イリジウム合金などの有価物を抽出して、リサイクルする

回収先施設数 22

将来の市場拡大を見込む

医療費削減、資源有効利用、環境保護



CDR

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等についての専門的な医療機器情報や医療技術情報を提供する者を指す。

CDR 認定制度

植込み型医療機器の適正かつ安全な使用のために、専門的な技術と知識を有し、かつ医療関連企業あるいは医療機関の従事者として高い倫理観を備えた専門家の育成を目指す制度。

認定者 148名

7月IBHRE試験合格者9名。認定までのタイムラグと退職者があり、認定者は前期末比増減なし

国内代理店 最大

施設拡大・売上獲得の競争力

RAQUOSインジェクションシステム

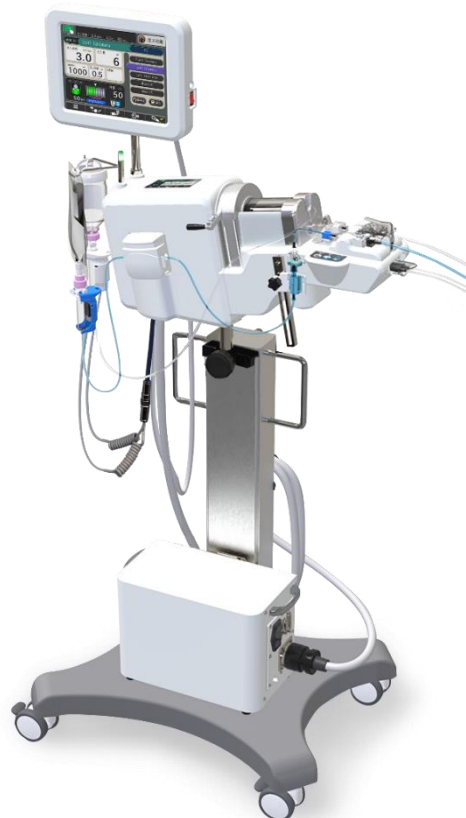
2020/10 薬事認証取得

RAQUOSディスポーザブルキット

2021/7 薬事認証取得

2021/8 販売開始

- 本体販売後継続的に消耗品を販売するビジネスモデル



造影剤自動注入装置
自社企画商品（製造は委託）

手技時間の短縮、放射線被ばく量の低減、造影剤使用量の削減が期待されます。
RAQUOSは患者様だけでなく医療従事者にも優しい医療を提供します。

今上期の販売はほぼ計画通り
今後、部材調達難の影響の懸念がある

海外展開の準備開始

2

当第2四半期（累計期間）の決算概況

要約損益計算書	P11
売上高	P12
売上総利益	P18
営業利益	P20
四半期純利益	P22
要約貸借対照表	P23
要約キャッシュ・フロー計算書	P24

要約損益計算書（第2四半期累計期間）

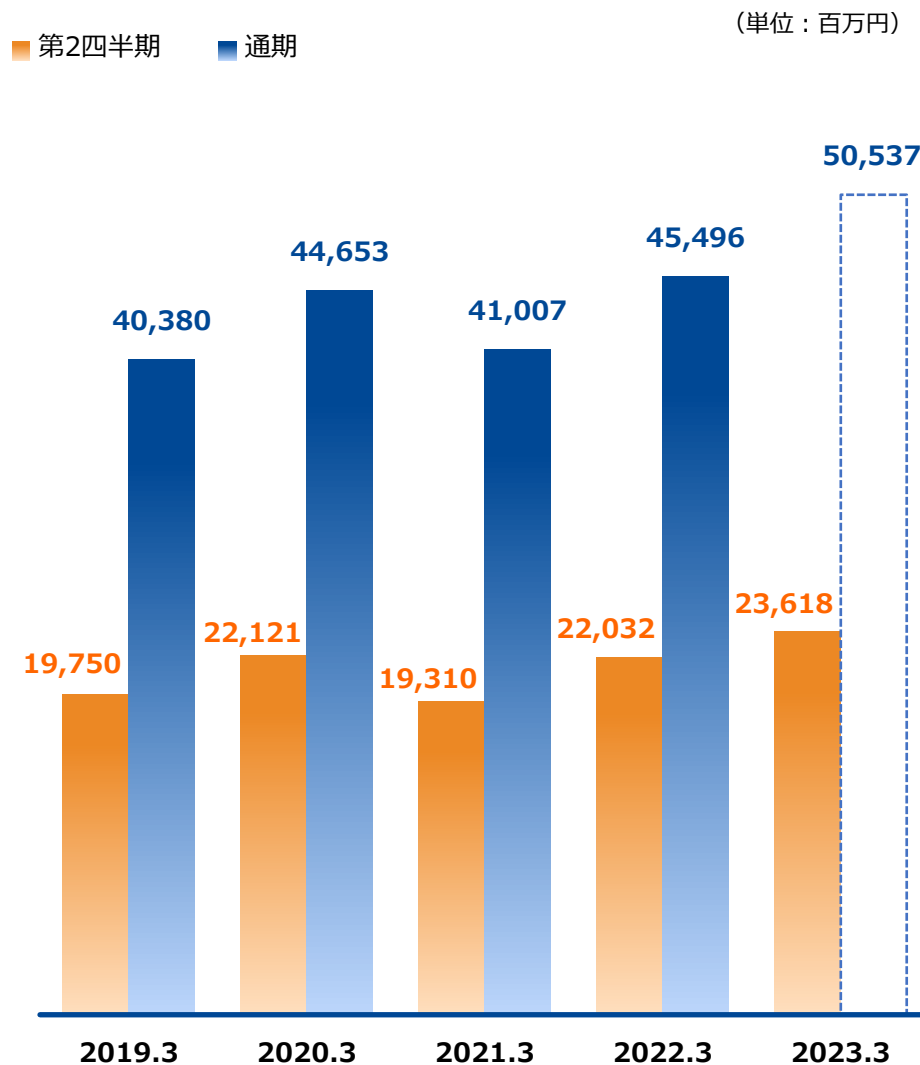


	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前年同期実績 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	23,618	100.0	22,032	+7.2
売上総利益	2,630	11.1	2,519	+4.4
販管費	2,032	8.6	1,996	+1.8
営業利益	598	2.5	522	+14.4
経常利益	614	2.6	524	+17.2
四半期純利益	416	1.8	359	+15.7

売上高 **236.1**億円

前年同期比 **7.2%増** 

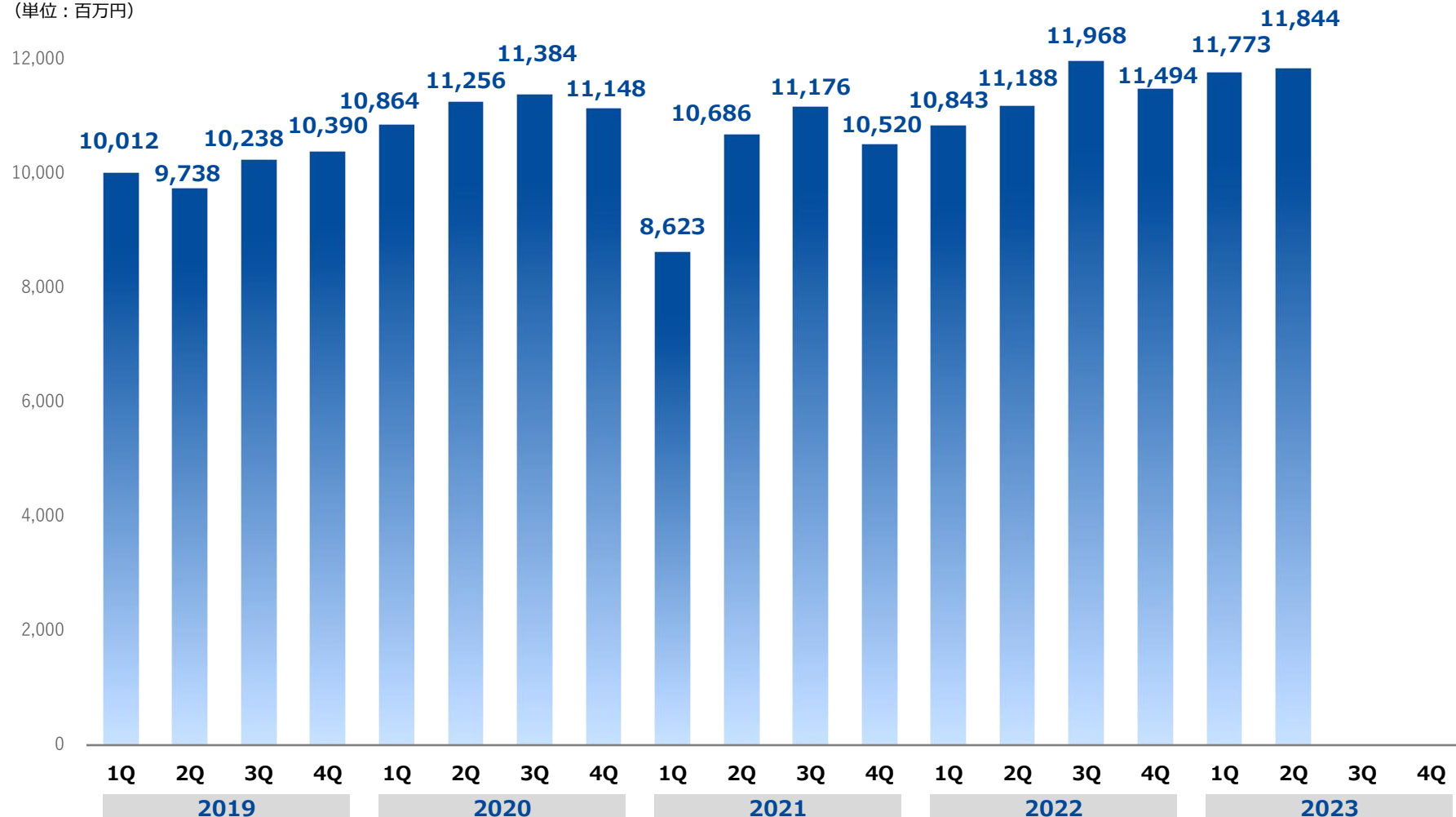
事業区分	実績 (百万円)	前年同期比 (%)
不整脈	20,292	+6.2
虚血	1,632	+8.9
その他	1,693	+19.4
合計	23,618	+7.2



四半期売上高の推移



(単位：百万円)



四半期売上高（累計ではない）の推移

※新型コロナウイルス感染症の影響がない2020年3月期第3四半期（2019/10～12月）の売上高を100.0とした指数

※指数推移の要因は新型コロナ感染症の影響が全てではありません。

		コロナ前		緊急事態 宣言①		緊急事態 宣言②		緊急事態 宣言③	緊急事態 宣言④	オミクロン		第7波	
		2020/3 3Q	2020/3 4Q	2021/3 1Q	2021/3 2Q	2021/3 3Q	2021/3 4Q	2022/3 1Q	2022/3 2Q	2022/3 3Q	2022/3 4Q	2023/3 1Q	2023/3 2Q
	関東	100.0	99.4	69.7	92.0	95.8	90.0	92.9	95.3	103.4	96.3	102.2	102.0
	関西	100.0	92.5	74.5	91.8	92.9	82.8	91.8	95.2	105.8	92.6	96.3	89.2
	中部	100.0	89.1	91.8	94.9	110.1	99.5	105.5	109.3	118.5	126.1	117.5	123.0
	その他 地域	100.0	93.6	91.7	105.4	107.9	98.6	107.4	106.0	106.5	104.0	108.5	110.9
販売代理店業 小計		100.0	96.8	75.6	94.0	98.9	91.7	96.2	98.4	105.9	100.8	104.5	104.8
総代理店業、 他		100.0	125.4	79.4	90.2	80.8	110.8	72.2	95.3	85.6	106.0	77.0	85.6
全社		100.0	97.9	75.8	93.8	98.2	92.4	95.3	98.3	105.1	101.0	103.4	104.0

※ 販売代理店業 その他地域：東北、中国、四国、九州

- 前期4Qに足踏みした関東地区が当期1Q、2Qに回復
- 中部地区が好調に推移
- 全社四半期売上高は4四半期連続でコロナ前水準を上回る

売上高 202.9億円

前年同期比

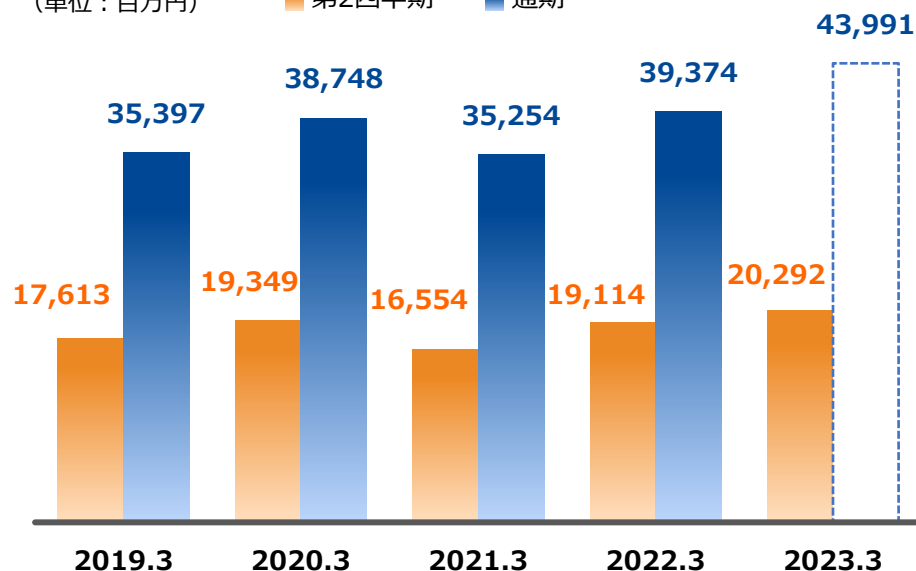
6.2%増

- 症例数の回復
- 既存施設深耕、新規施設、大学病院、ABL立ち上げ施設
- ICDが好調

(単位：百万円)

■ 第2四半期

■ 通期



	実績 (百万円)	前年同期 (百万円)	前年同期比 (%)
PM	1,964	1,932	+1.6
ICD	1,180	1,008	+17.1
CRT-D	1,022	1,001	+2.1
電極カテーテル	5,786	5,357	+8.0
心腔内エコーカテ	2,063	1,896	+8.8
ABL機能付	3,151	3,065	+2.8
ABLカテーテル	210	212	△0.9
冷凍ABLカテ	1,241	1,144	+8.5
その他	3,671	3,496	+5.0
合計	20,292	19,114	+6.2

売上高（虚血事業）



売上高 16.3億円

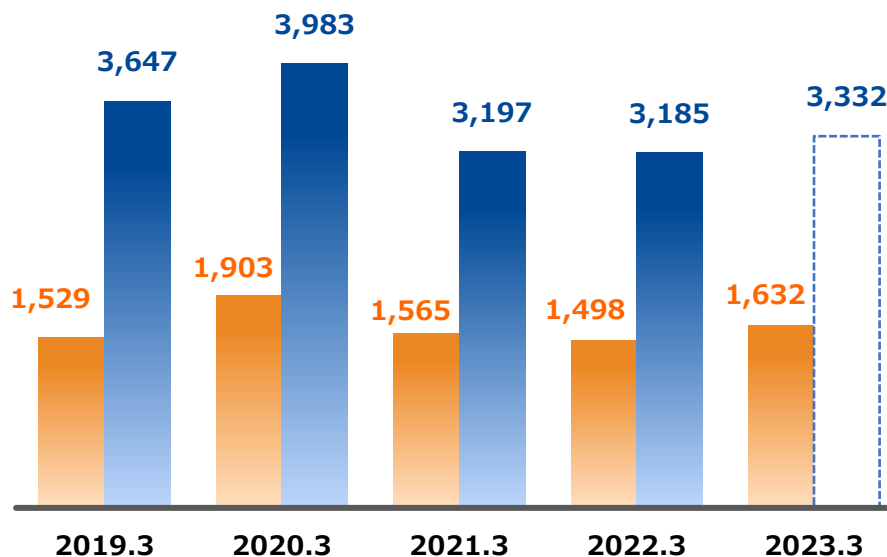
前年同期比 8.9%増 

- 新型コロナウイルス感染症の影響縮小
- レーザー事業売上の回復
- RAQUOS事業の立ち上げ

(単位：百万円)

■ 第2四半期

■ 通期



	実績 (百万円)	前年同期 (百万円)	前年同期比 (%)
レーザー事業	621	546	+13.7
その他	1,011	952	+6.1
合計	1,632	1,498	+8.9

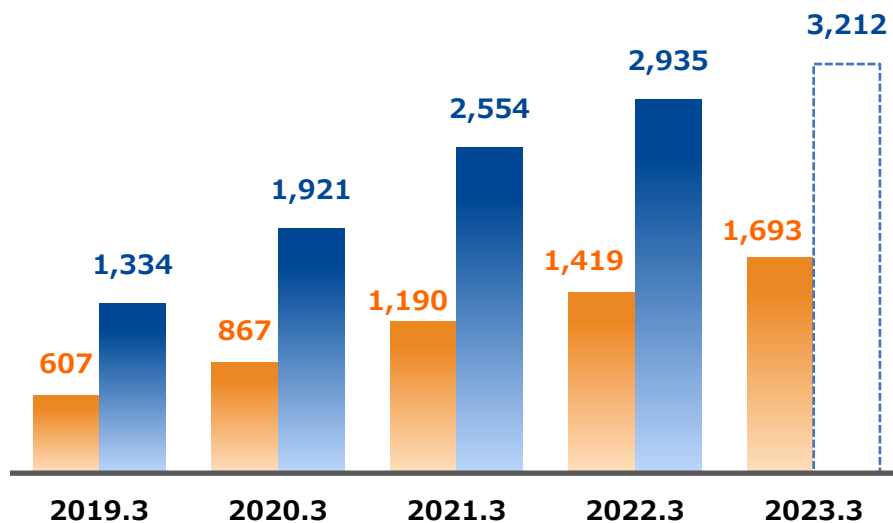
売上高 16.9億円

前年同期比 19.4%増 

- 当社にとって新領域で伸びしろ大
- TAVI、脳血栓除去デバイスが好調
- 自社企画商品が好調

(単位：百万円)

■ 第2四半期 ■ 通期



	当期 (百万円)	前年同期 (百万円)	前年同期比 (%)
ストラクチャー	690	527	+30.7
頭部腹部領域	631	549	+15.1
心臓血管外科	70	71	△1.0
外科	74	64	+16.0
その他	226	206	+9.7
合計	1,693	1,419	+19.4

売上総利益 26.3億円

前年同期比

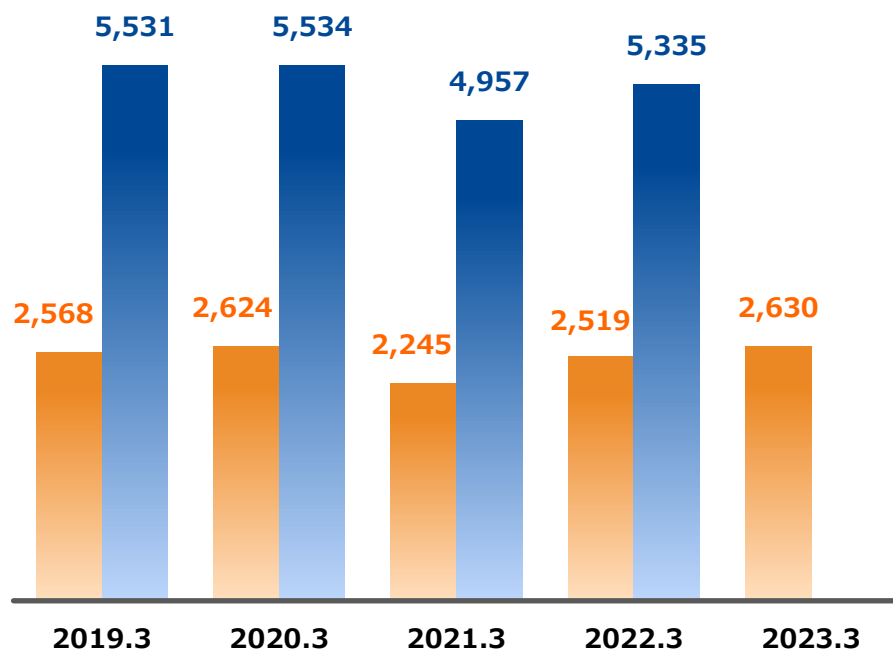
4.4 %増

■ 粗利率11.1 % (前年同期11.4%)

(単位：百万円)

■ 第2四半期

■ 通期



	実績 (百万円)	前年同期比 (%)
不整脈	2,241	+9.2
虚血	188	△39.1
その他	200	+27.3
合計	2,630	+4.4

売上総利益（事業別）



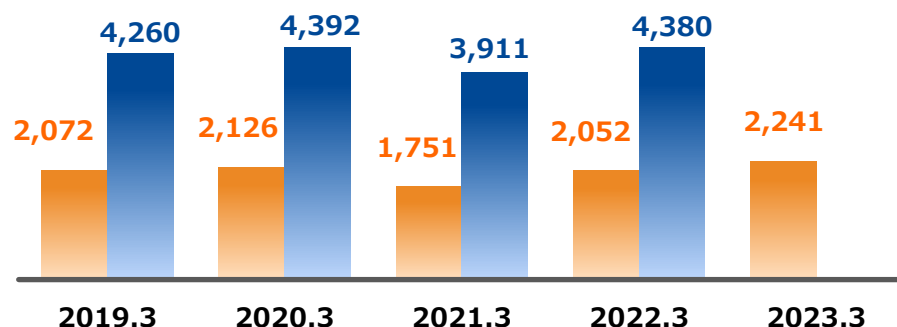
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：百万円)

不整脈事業

セグメント利益 **22.4億円**

前年同期比 **9.2%増**

- 粗利率11.0%（前年同期10.7%）
- インセンティブ獲得、高利益商品販売

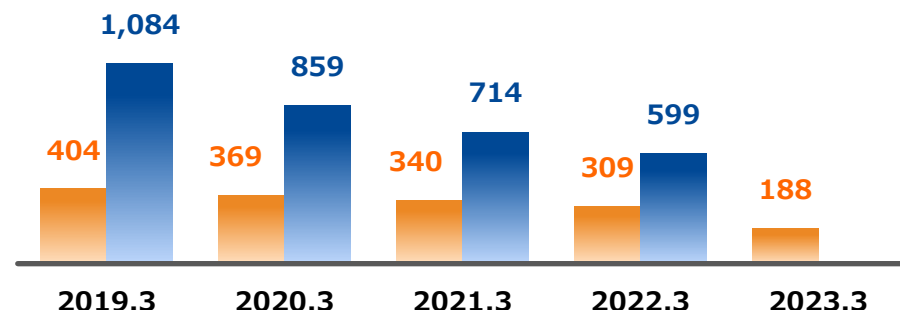


虚血事業

セグメント利益 **1.8億円**

前年同期比 **39.1%減**

- 粗利率11.6%（前年同期20.7%）
- レーザー事業取引条件の変更の影響

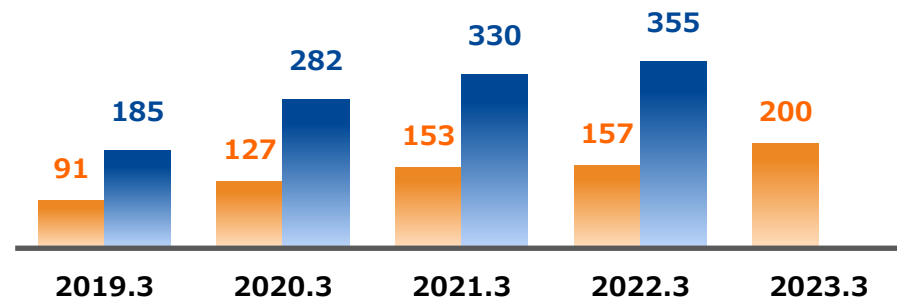


その他

セグメント利益 **2.0億円**

前年同期比 **27.3%増**

- 粗利率11.9%（前年同期11.1%）
- 利益率の高い自社企画品の売上増加

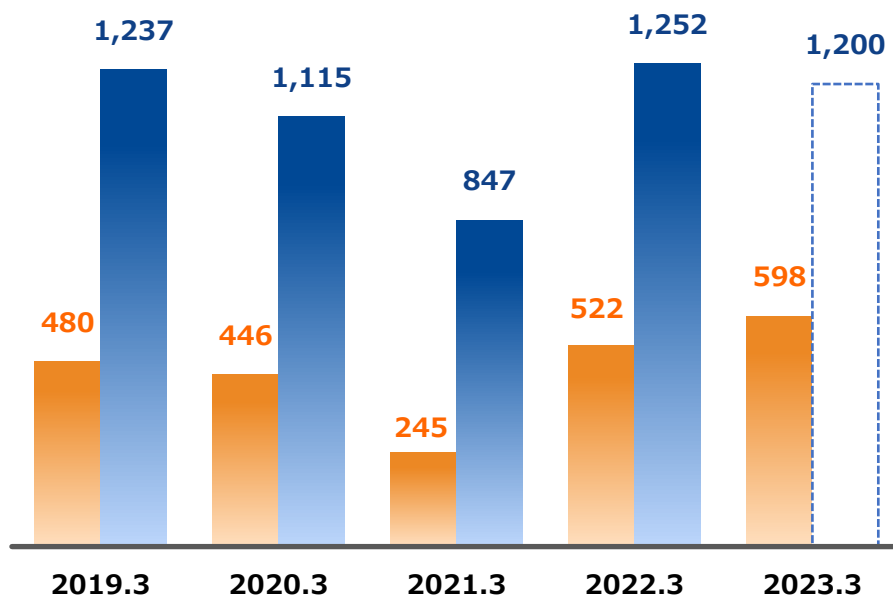


営業利益 5.9億円

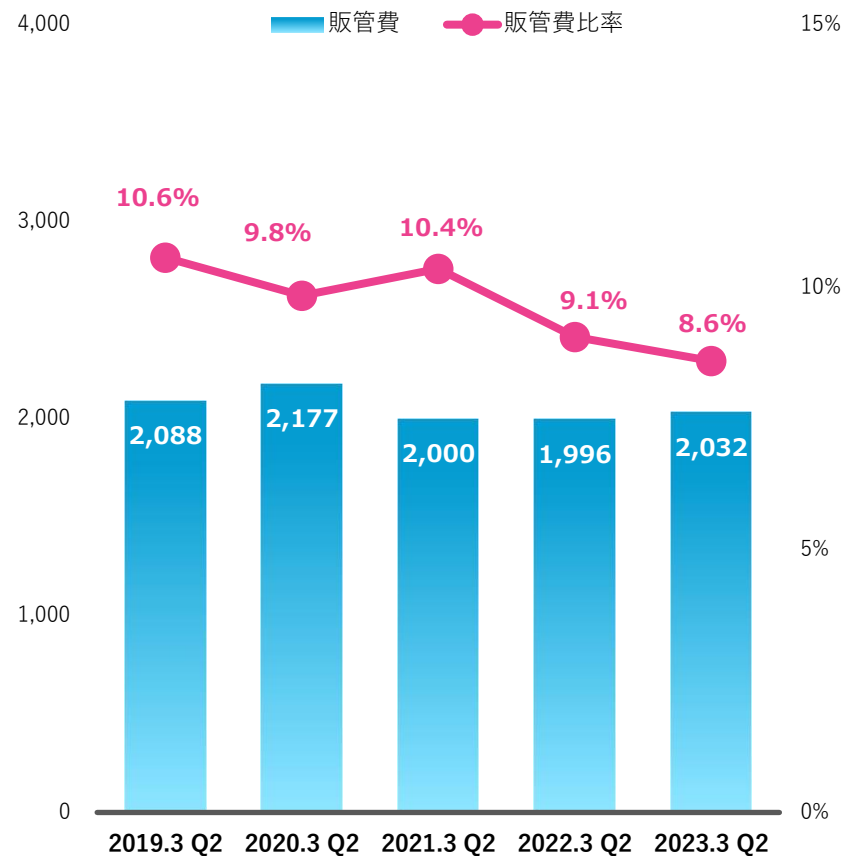
前年同期比 14.4%増

- 売上総利益 前年同期比4.4%増
- 販売管理費 前年同期比1.8%増
- 売上高営業利益率2.5%（前年同期2.4%）
- 売上高販管費比率8.6%（前年同期9.1%）

（単位：百万円） ■ 第2四半期 ■ 通期



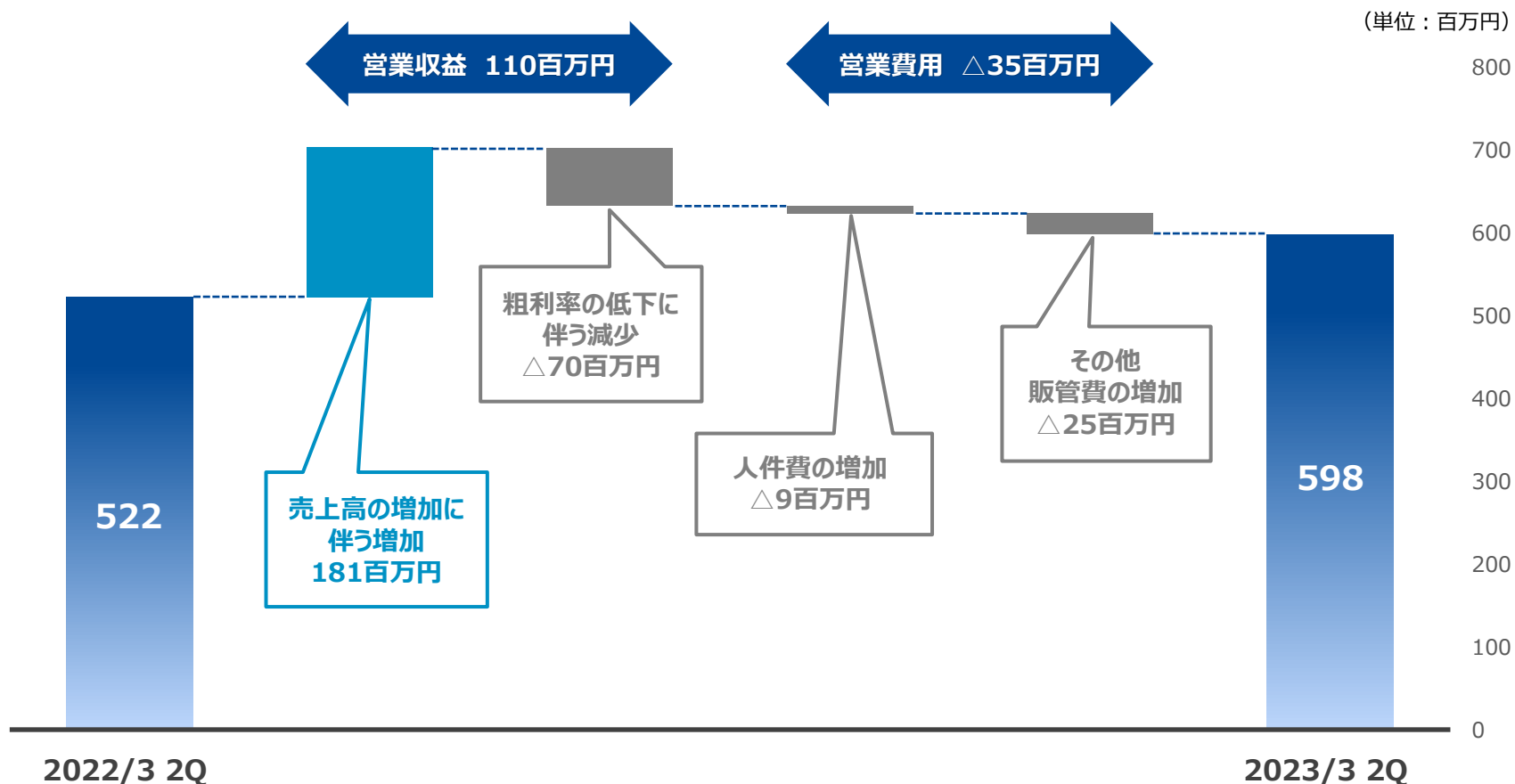
（単位：百万円）



営業利益増減分析



売上高の増加で181百万円増加、粗利率の低下で70百万円減少、
販売管理費の増加で35百万円の減少



■ 第2四半期 ■ 通期

(単位：百万円)

四半期純利益 4.1億円

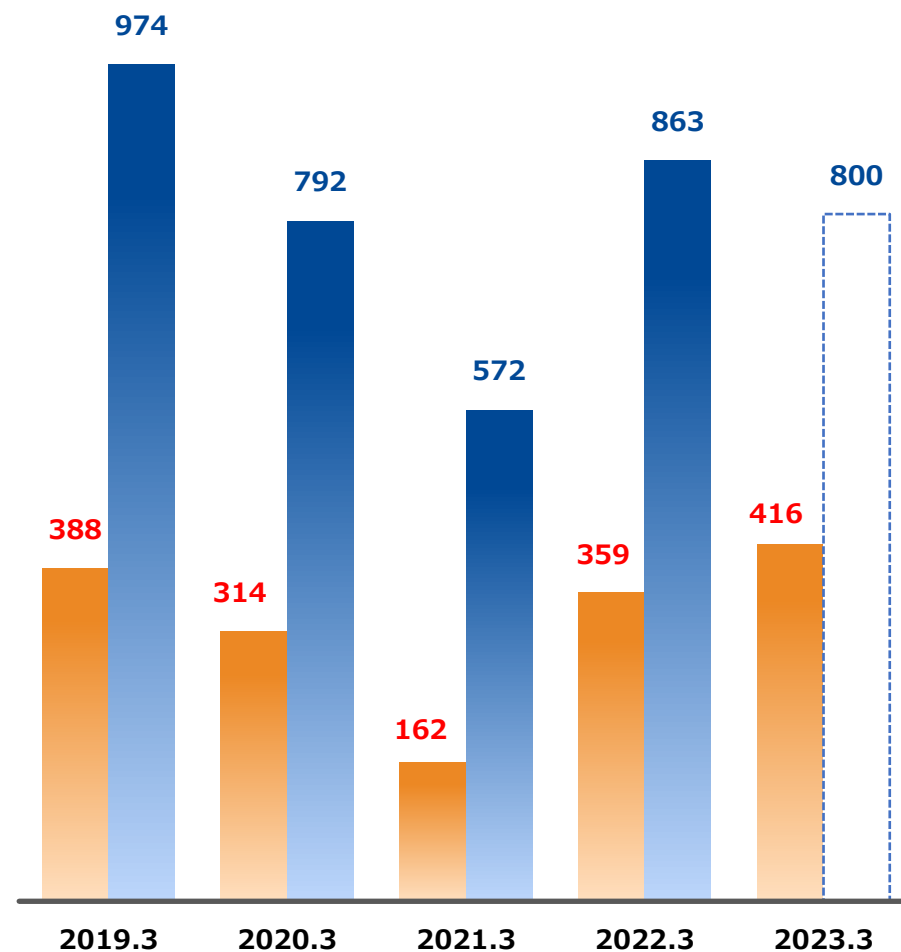
前年同期比 15.7%増 

主な営業外損益

- 為替差益 9百万円
- その他 6百万円

主な特別損益

- 固定資産除却損 2百万円



要約貸借対照表（第2四半期末）



	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末 (百万円)	前期末比 (%)	主な増減要因
流動資産	22,021	94.1	20,827	+5.7	+ 現預金の増加（926百万円） + 受手、売掛金及び契約資産の増加（300百万円） ▲ 電子記録債権の減少（161百万円） + 商品の増加（185百万円）
固定資産	1,377	5.9	1,383	△0.4	▲ 有形固定資産の減少（80百万円） + 繰延税金資産の増加（74百万円）
資産合計	23,399	100.0	22,210	+5.4	
流動負債	14,128	60.4	13,140	+7.5	+ 買掛金の増加（945百万円） ▲ 未払法人税等の減少（25百万円） ▲ 賞与引当金の減少（25百万円）
固定負債	489	2.1	482	+1.5	+ 退職給付引当金の増加（22百万円）
負債合計	14,618	62.5	13,623	+7.3	
純資産	8,781	37.5	8,587	+2.3	+ 利益剰余金の増加（156百万円）
負債純資産合計	23,399	100.0	22,210	+5.4	

要約キャッシュ・フロー計算書（第2四半期累計期間）



	実績 (百万円)	前年同期 (百万円)	当期の主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,200	894	● 税前当期純利益（612百万円） ● 減価償却費（181百万円） ● 売上債権の増加（△130百万円） ● 棚卸資産の増加（△271百万円） ● 仕入債務の増加（945百万円） ● 法人税等の支払額（△294百万円）
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28	△25	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△254	△248	● 配当金の支払（△258百万円）
現金及び現金同等物の増減額	926	621	
現金及び現金同等物の期首残高	7,846	6,486	
現金及び現金同等物の四半期期末残高	8,773	7,107	

3

2023年3月期の見通し

売上高	P26
営業利益	P27
当期利益	P27
進捗率	P28
配当	P29

（単位：百万円）

売上高 505.3億円

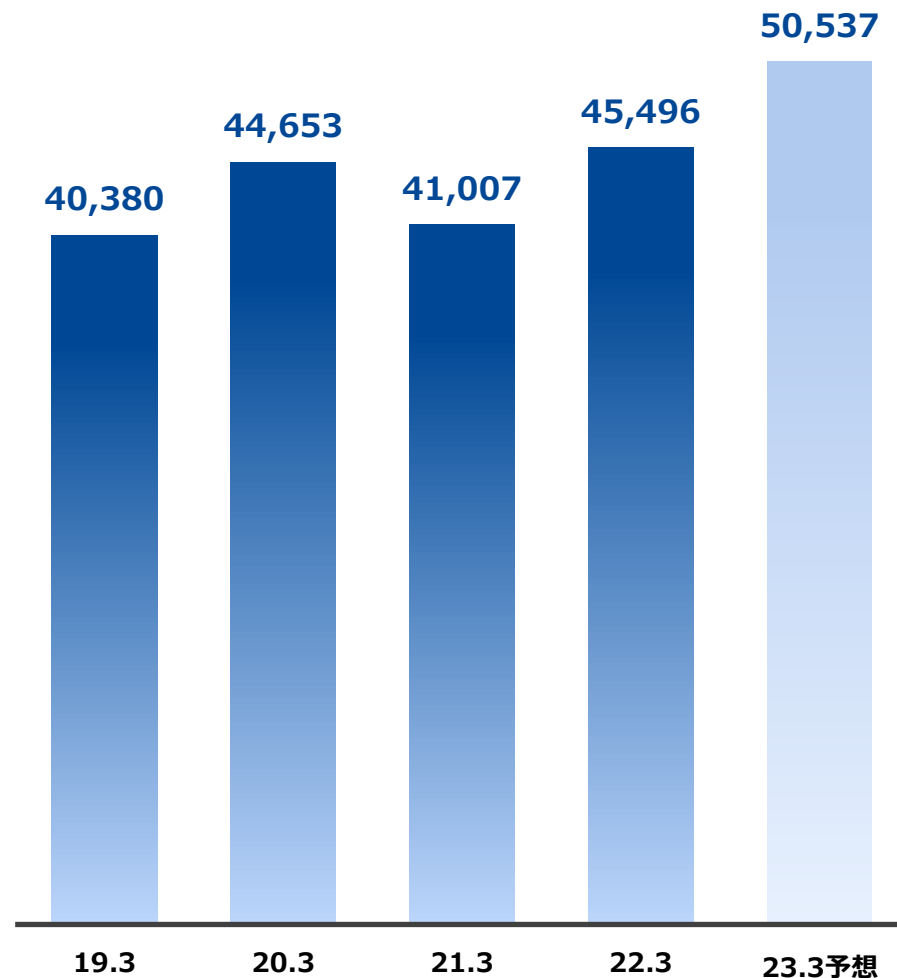
前期比

11.1%増



- 新型コロナウイルス感染症による影響の解消
- 施設拡大、品目拡大による売上増加を見込む

- 不整脈事業 439億91百万円（11.7%増）
- 虚血事業 33億32百万円（4.6%増）
- その他事業 32億12百万円（9.4%増）



業績予想（営業利益、当期純利益）

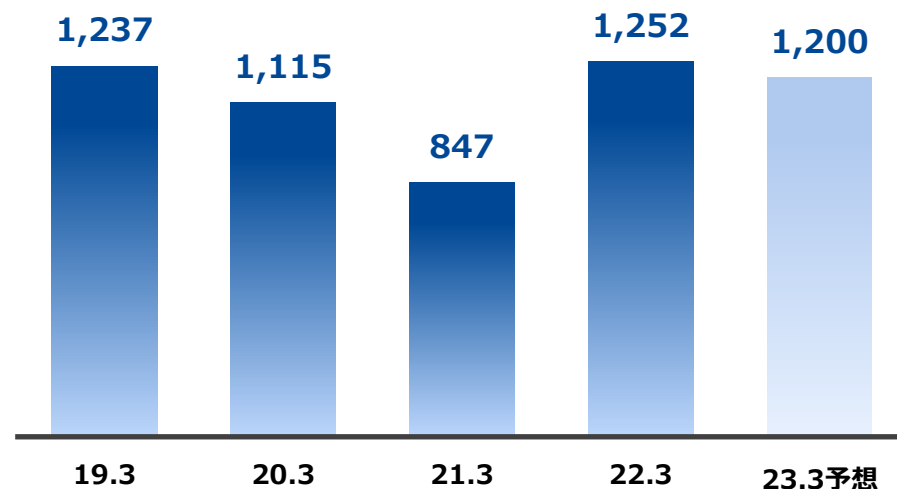


（単位：百万円）

営業利益 12.0億円

前期比 4.2%減

- 売上高の増加（営業利益増加要因）
- 粗利率の低下（営業利益減少要因）

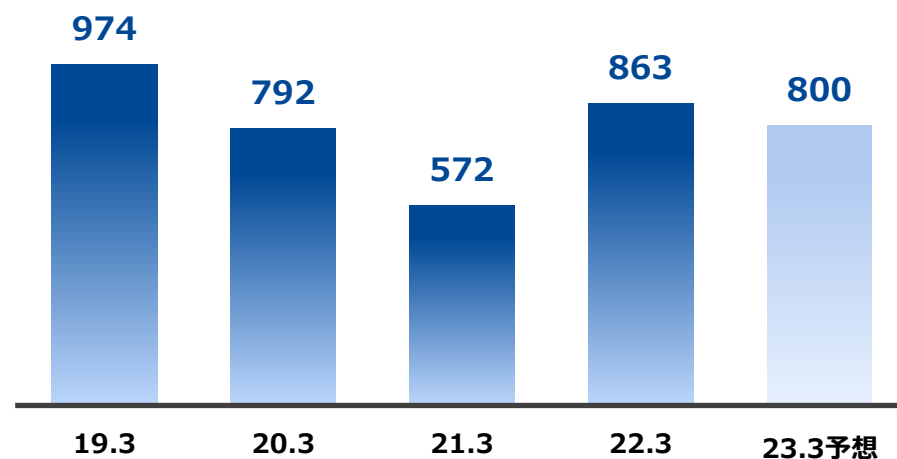


当期純利益 8.0億円

前期比 7.2%減

予想EPS 77円20銭

前期実績 83円56銭



	通期 (計画)	当第2四半期 累計 (実績)	進捗率 (対通期計画)
売上高	50,537	23,618	46.7%
営業利益	1,200	598	49.9%
経常利益	1,200	614	51.2%
当期純利益	800	416	52.0%

配当予想 (2023年3月期)



期末配当金 **25.0円**

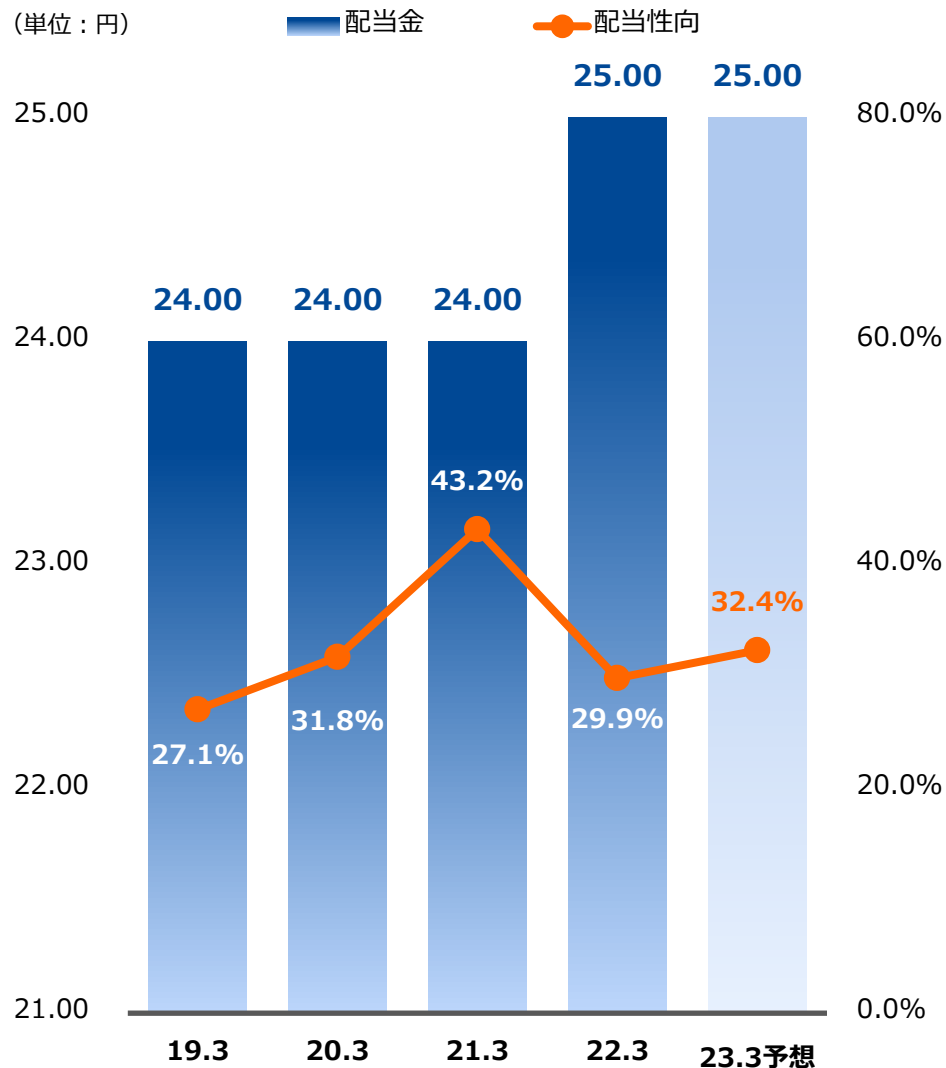
2022年3月期 **25.0円**

配当性向 **32.4%**

2022年3月期 **29.9%**

配当方針の継続

- 継続的かつ安定的な配当による株主還元を行うことを基本として配当を決定する



4

中期展望

中期経営計画

P31

オルバヘルスケアホールディングス株式会社
との業務提携に関する基本合意について

P34

中期経営計画

新たな10年に向け、持続的成長を可能とする事業基盤と組織の構築

ディーバイエックス株式会社
代表取締役社長 柴崎 浩



中期経営計画の背景

当社は、「生命と健康を守る」をパーパスに掲げ、
当社の製品やサービスが日本のみならず世界中の生命と健康を守る。
当社の製品やサービスが1秒に一人の生命と健康を守る。
そのような世界を思い描いています。

それを実現するため、持続的成長を可能とする事業基盤を構築し、
変化に挑戦し成長し続ける組織に変革するための方向性を決めました。



パーパス：生命と健康を守る

ミッション：患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供し、最適な医療の普及に貢献する。

ビジョン：医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。

人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、新たな事業を開拓する。

テーマ
～その目的～

中長期戦略

中期計画

1

利益率、生産性向上

～医療への持続的な貢献～



独自製品拡充
DXによる物流・事務省力化



自社企画品投入
DXと事務フロー変革

2

地域的依存度低減

～コア事業での競争力の保持～



バランス経営のもとでの全国シェア拡大
労働・資本生産性に基づく意思決定



営業利益（配賦後）、労働生産性評価
資本コスト（ROIC）指標

3

強靱な事業ポートフォリオ

～リスクの分散とニーズの追求～



代理店・商社・開発のバランス
ニーズ志向の新商品導入促進



輸入総代理店機能強化
新製品投入の検討ルーティン加速

4

新たな成長基盤の強化（市場）

～世界中の生命と健康を守る～



海外市場開拓
隣接事業開拓



海外仕様開発
RAQUOSアジア向け輸出開始
R-SUD、リサイクル事業

5

成長基盤の強化（組織）

～技術・環境の変化を機会にする～



女性活躍推進
多様な人材育成



女性比率
人材育成予算
M&Aの活用

業務提携に関する基本合意について



2022年10月17日

各 位

会 社 名 ディービーエックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 柴崎 浩
(コード番号: 3079 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役 平能 直弘
電 話 03-5985-6827

オルパヘルスケアホールディングス株式会社との業務提携に関する基本合意のお知らせ

当社は、2022年10月17日開催の取締役会において、以下のとおり、オルパヘルスケアホールディングス株式会社(岡山県岡山市。以下「オルパ社」と)との業務提携に向けた基本合意書(以下「本合意書」)の締結を決議しましたので、お知らせします。

1. 業務提携の理由

当社は、中期経営計画において、持続的成長を可能とする事業基盤を構築し、変化に挑戦し成長し続ける組織に変革するための方向性を定めており、以下を重点項目としております。

- ① 利益率・生産性向上
- ② 地域的依存度低減
- ③ 強じんな事業ポートフォリオの構築
- ④ 新たな成長基盤の強化(市場)
- ⑤ 成長基盤の強化(組織)

この方針を達成するため、外部との協業を検討してきましたが、以下の項目に関して、オルパ社と業務提携の検討について合意し、本合意書を取り交わすこととしました。

2. 業務提携の検討内容等

(1) 業務提携の検討内容

- ・購買、物流の合理化によるコストの低減
- ・販売連携による売上拡大と収益率の改善
- ・教育システムの相互利用による人的資本投資の推進
- ・医工連携におけるニーズ、シーズの情報交換
- ・情報システムの運用、共同利用によるDX推進

なお、現時点で具体的な取組内容については未定であり、本合意書に基づき協議のうえ検討を進めてまいります。

3. 業務提携の相手先の概要

(1)	名 称	オルパヘルスケアホールディングス株式会社		
(2)	所 在 地	岡山市北区下石井一丁目1番3号 日本生命岡山第二ビル		
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 前島 洋平		
(4)	事 業 内 容	株式の保有によるグループ会社の事業活動管理および経営指導		
(5)	資 本 金	607,750 千円		
(6)	設 立 年 月	1967年10月		
(7)	大株主及び持株比率	株式会社マスブ	13.23%	
		オルパヘルスケア従業員持株会	6.62%	
		日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	4.93%	
		前島達也	4.90%	
		株式会社山陰合同銀行	4.55%	
		株式会社中国銀行	4.54%	
		前島洋平	3.06%	
		前島智征	3.05%	
		株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2.71%	
		株式会社伊予銀行	2.70%	
(2022年6月30日現在)				
(8)	上場会社と当該会社との間の関係	資 本 関 係	該当事項はありません。	
		人 的 関 係	該当事項はありません。	
		取 引 関 係	当社とオルパ社の子会社との間で販売取引および仕入取引があります。	
		関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません。	
(9) 当該会社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態				
決算期		2020年6期	2021年6期	2022年6期
連 結 純 資 産		7,281 百万円	8,131 百万円	9,093 百万円
連 結 総 資 産		33,683 百万円	36,562 百万円	39,968 百万円
1株当たり連結純資産		1,197.17 円	1,336.91 円	1,513.91 円
連 結 売 上 高		97,872 百万円	102,072 百万円	107,969 百万円
連 結 営 業 利 益		927 百万円	1,540 百万円	2,073 百万円
連 結 経 常 利 益		905 百万円	1,542 百万円	2,119 百万円
親会社株主に帰属する当期純利益		326 百万円	989 百万円	1,535 百万円

業務提携に関する基本合意について



1株当たり連結当期純利益	56.76円	162.66円	252.80円
1株当たり配当金	45.00円	50.00円	60.00円

4. 日 程

(1) 取締役会決議日	2022年10月17日
(2) 本合意書締結日	2022年10月17日

5. 今後の見通し

この合意による2023年3月期の業績への影響はございません。なお、具体的な取組内容については、本合意書に基づき検討を行い、2023年3月31日までに業務提携契約の締結を目指します。

業務提携契約は、提携の内容について両社で合意次第締結し、開示すべき事項が発生した場合は、速やかに公表いたします。

以 上

5

企業理念とESG方針

企業理念

P37

ESG方針

P38

パーパス（私たちの存在理由）

生命と健康を守る。

ミッション（私たちがなすべきこと）

患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供し、最適な医療の普及に貢献する。

ビジョン（その先にある未来像）

**医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。
人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、
新たな事業を開拓する。**

バリューズ（私たちが共有する価値観）

- 私たちは、人に優しい医療の実現に貢献する。
- 私たちは、ニーズを捉え、最適なサービスを考える。
- 私たちは、相互に理解し合い、相互に助け合う。
- 私たちは、自己の目標を定め、常に能力の向上を目指す。
- 私たちは、適正な利益を確保した公正な取引を行う。
- 私たちは、人の『心』をもって正直に行動する。

環境（Environment）に関する方針と重要課題

当社は、社会生活、企業活動の基盤である自然環境の負荷軽減に貢献します。また、医療業界におけるソリューションリーダーとして、未来を見据え、効率的な資源利用と環境保全に配慮した事業活動を行います。

環境基本方針/消費電力の削減/ガソリン使用量の削減/資源の有効活用

社会（Social）への貢献に関する方針と重要課題

当社は、『心』ある多様な人材を持続的競争優位の源泉と考え、全ての従業員がいきいきと働くことができる職場環境を整備し、幸せな生活と人生の基盤を提供します。また、従業員の創造的な活動を通じて、社会全体への最適な医療の提供に貢献します。

人事基本方針/安全な職場環境/ダイバーシティ（D&I）推進/働きがいの創出/地域社会への貢献/公正な取引の推進/サプライチェーンのサステナビリティ

コーポレートガバナンス（Governance）に関する方針と重要課題

当社は、自然環境、社会環境といった環境の変化に柔軟に対応し、果敢に挑戦することができるリスク管理体制を構築、維持します。また、社会やステークホルダーに対する責任を自覚し、その信頼に応えるため、適切な牽制機能を備え、透明性の高い情報開示を行います。

コーポレートガバナンスの強化/株主還元基本方針/内部統制システムの適正な運用/情報セキュリティマネジメント体制の強化/災害レジリエンスの強化/透明性の高い情報公開/コンプライアンス推進・リスク管理体制の適正な運用/役員報酬・指名決定手続



*Development
Venture*

X (無限の可能性)

IRについてのお問い合わせ先 財務経理部

TEL : 03-5985-6832 E-Mail : ir_form@dvx.jp URL : <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。